

# 伊東静雄の略歴と業績

明治三十九年 長崎県諫早町(現諫早市)に生まれる  
 大正八年 長崎県立大村中学校入学  
 大正十二年 佐賀高等学校文科乙類入学  
 大正十五年 京都帝国大学文学部国文学科入学  
 昭和四年 大阪府立住吉中学校に就職  
 昭和七年 同人誌「呂」に作品を発表  
 昭和八年 「コギト」に作品を発表  
 昭和十年 詩集「わがひとに与ふる哀歌」出版  
 文藝汎論賞受賞  
 昭和十五年 「詩集夏花」出版 北村透谷賞受賞  
 昭和十八年 詩集「春のいそぎ」出版  
 昭和二十二年 詩集「反響」出版

昭和二十三年 学制改革により住吉中学校から新制阿倍野高校に転任  
 昭和二十四年 肺結核発病 国立大阪病院長野分院に入院  
 昭和二十八年 三月十二日永眠 諫早市の広福寺に埋葬  
 昭和二十九年 諫早公園に詩碑建立  
 昭和四十年 諫早公園詩碑前で「菜の花忌」始まる  
 昭和五十七年 大阪府立住吉高等学校に詩碑建立  
 昭和五十九年 大阪市阿倍野区松虫通りに詩碑建立  
 昭和六十二年 諫早鷺崎交差点に詩碑建立  
 平成二年 伊東静雄賞制定  
 平成十九年 堺市旧堺燈台そばに詩碑建立  
 平成二十五年 堺市立美原図書館に詩碑建立

## 伊東静雄賞 受賞者(敬称略)

第1回	本多 寿
第2回	(奨励賞) 角田清文・堀内統義・福田尚美
第3回	新井章夫
第4回	(奨励賞) 池 崇一・柳生じゅん子・甫守哲治
第5回	貝原 昭
第6回	(奨励賞) 遠藤昭己・帆足みゆき・森 一步
第7回	遠藤昭己
第8回	(奨励賞) 寺下昌子・浦川ヨ子・城 千枝
第9回	松本知沙
第10回	小林陽子
第11回	(奨励賞) 羽田敬二・門田照子・福 明子
第12回	帆足みゆき
第13回	(奨励賞) 小町よしこ・谷本州子・中山直子
第14回	村尾仁子
第15回	真下宏子
第16回	彦坂まり
第17回	斉藤礼子
第18回	(奨励賞) おおむらたかじ・下川敬明
第19回	原利代子
第20回	(奨励賞) 頼圭二郎・池谷敦子
第21回	(奨励賞) 在間洋子・新垣汎子
第22回	西村泰則
第23回	(奨励賞) 和井田勢津・鮑浦 敏
第24回	谷元益男

### 〈問合せ先〉

諫早市芸術文化連盟 ☎0957-22-1103  
 発表誌「諫早文化」ご希望の方は 振替 01820-4-24915  
 諫早市芸術文化連盟まで10号と指定してお申し込み下さい。  
 誌代 1部 1,300円(送料含)

### 〈事務局〉

〒854-0014 長崎県諫早市東小路町10-25  
 諫早市芸術文化連盟 ☎0957-22-1103

平成二十六年度  
 第二十五回

# 伊東静雄賞

作品募集要項



伊東静雄顕彰委員会

第二十四回 伊東静雄賞受賞作品

滑車

谷元益男  
(宮崎県在住)

百歳に近い老女が病院で

息を引きとって 息子の家に帰ってきた

外は寒く ときどき あわく照らす月が

草の先に凍ったひかりを溜めている

数人の村人らが集まって

老女はかかえられて仏間の畳に寝かせられる

食べることも難しかった体は

ほほ骨の線が飛び出て 毛をむしったスズメの

ように 細くどがついていた

すこし離れた牛舎にいる何頭もの牛が

深夜なのに 老女がはこびいれられるとき

甲高い声で啼き 凍てつく闇にかき消された

牛舎のある部分が 電燈に照らされて浮き上がっている

拳より おおきな穴が 闇にあって

牛が いま仔を産むところだった

わずかに見える 仔の前足が なかなか出てこず

親牛も弱っている

男は 仔牛の前足をロープで縛り 滑車に

引っ掛け ゆっくり力を加える

息をひきとった老女が畳の上で 徐々に硬くなる

老女の 胸の前で組まれた細い腕を くぐり抜け

仔牛は生まれかわりのように

わずかに光る藁の上にずれ落ちた

親の舌が絶え間なく仔をなめることで

仔牛は薄闇を背負って 立ち上がった

母屋と牛舎をつなぐ波うつ闇から

引き出されたもの

滑車の先で前足を折って

祈りの姿勢でたたずむものは

老女の影か 牛の影か

見分けがつかない

わたしはしずかに

拍手をおくっていた

《賞の選考および発表》

平成26年11月中旬(予定)。発表誌は、市芸術文化連盟誌「諫早文化」第10号 27年4月発行 選評・佳作者氏名も掲載します。

《贈呈式》

平成27年3月29日(日)  
第51回「菜の花忌」終了後、諫早市内で行います。

《選考委員》

田中 俊廣氏 高塚かず子氏  
以倉 紘平氏 伊藤 桂一氏

平成26年4月1日

諫早市・諫早市芸術文化連盟・伊東静雄顕彰委員会

性別・職業・電話番号を明記のこと。作品の返却はしない。  
応募料不要。応募者の個人情報、選考及び本賞に関する通知、発表以外には使用しません。

《賞》

伊東静雄賞 1篇  
正賞 賞状 副賞 50万円  
該当作品がない場合は、奨励賞2篇 各25万円

《応募締切》

平成26年8月31日(日) 当日消印有効

《原稿送先》

〒854-0014 長崎県諫早市東小路町10-25  
諫早市芸術文化連盟 伊東静雄賞係

《趣旨》

諫早が生んだ詩人伊東静雄。独自の強烈な精神で、日本の詩界に足跡を刻んだ詩業を顕彰し、文学の振興と豊かな芸術文化の高揚に資するため、毎年優れた現代詩を示した詩人にこの賞を贈ります。

《応募方法》

現代詩 題名含め40行以内、未発表の作品で1人1篇のみ。(新聞・雑誌・同人誌・ホームページ・ブログその他のメディアで既に発表したもの、および他の文学賞に応募した作品は除く) A4版400字詰め原稿用紙2枚以内(パソコン使用の場合は、A4版20字×20行の縦書きで印字のこと) 欄外もしくは余白に、郵便番号・住所・氏名(ふりがな)(筆名の場合本名も)・年令・